

# サクラ花

「桜花最期の特攻」

## 被爆ピアノで歌う 泰葉ライブと映画「サクラ花」上映

6/11(日) 広島国際会議場ダリアホール (小ホール)

大和田健介 林家三平 橋本一郎 三瓶  
城之内正明 奥野瑛太 佐久間悠 三山ひろし  
渡辺裕之 磯山さやか キタキマコ 緒形直人

語り: 役所広司  
脚本: 菅乃廣 松村克弥 亀かずお  
監督: 松村克弥  
©2015サクラプロジェクト

## 戦争と名曲

平成27年度 東京都推奨映画 Japan Film Festival Los Angeles 2017 招待作品

ジャズ・民謡・童謡・そして軍歌まで…  
戦時中の発禁歌を魂の絶唱!



衝撃の特攻映画「サクラ花」～桜花最期の特攻～と  
主題歌を唄う泰葉の「禁じられた名曲」ライブとの  
画期的競演!

午前の部/11時開演 午後の部/14時30分開演 (開場は30分前)

入場料 前売 2,500円 (税込) 当日 3,000円 (税込)  
(学生) 前売 1,500円 (税込) 当日 2,000円 (税込) 全席自由

プレイガイド エディオン広島本店プレイガイド地下1階 082-247-5111  
天満屋広島アルパーク3階プレイガイド3階 082-501-1745

主催:(同)サクラプロジェクト  
協力:唯信寺/たのしいぎもの叶や/  
ビックサービス/和布工房アトリエRin/安芸ん堂ニシキプリント/  
広島映画センター/矢川ピアノ工房  
お問合せ:(株)ファミリーアーツ 050-5532-7890 (平日11時~16時)

アクセス JR広島駅から路線バス(所要時間:約20分)  
南口バスのりばA-3 ホームより、広島バス24号線吉島営業所  
または吉島病院行「平和記念公園」下車すぐ

13時30分より泰葉ライブあり



# コノリアルハ 71 年前ノ古イ出来事デハナイ

## 1945年 -

### 僕らに羽ばたく空などなかった。

第二次大戦末期、一つの兵器が生み出された。

それは、おびただしい若者たちの命を奪った兵器、「桜花(おうか)」。

プロペラも車輪もない。敵艦に向かって突撃するだけの一人乗り小型特攻機。

一度乗れば、二度と生きて戻れず、《人間爆弾》と呼ばれた。

茨城県・神之池基地(現在の神栖市・鹿嶋市)での秘密訓練を終え、

昭和20年初夏、桜花は一式陸攻機の腹部に搭載されて、激戦地の沖縄に向かう。

乗員は8人。うち、桜花に乗り込むのは17才の少年であった…。



映画評論家 寺脇 研

ヒロイズムも無ければ救いもない。生き残る者の感傷も無い。戦争において人間が次々無念の思いで死んでいく悲劇を、ここまであからさまに描いた映画はなかった。

作家 小林 照幸

(大宅壮一 ノンフィクション賞受賞)

戦争を知らない世代による戦争を知らない世代への伝え方が戦後71年という節目の中で、改めて問われる中、本作品は独自の重みを有している。

作家 竹吉 優輔

(第59回江戸川乱歩賞受賞)

この国はかつて、カタルシスや救いが存在しない“戦争”があった。どの戦争映画とも違う、生々しい血の感触。慈悲も美学もない死に様に、本物の戦争を感じた。



エッセイスト・作家 海老名 香葉子

狭い空間の中で、悔しい自分の死を嘆くことさえできず死んでいく兵士。死を直前にして、「お母さん」と言えないことも分かった。現実の特攻機の中を見てほしい…。平和の今日だからこそ、日本中の皆さん、観てください！  
世界中の皆さんにも見て頂きましょう！

映画祭ディレクター 藤本 高之

知られざる特攻兵器を題材にした、  
これぞ“空の『野火』”！

歴史時代作家クラブ代表幹事・小説家 岳 真也

素晴らしい映画です。確実に戦争が「厭」になります。それぞれの兵ではなく、敵でも味方でもなく、「戦争」そのものが厭になるのです。冷酷冷徹な機長役の緒形直人が、「お国のために死ぬます」という主役の若い整備兵曹(大和田健介)と対峙する場面は圧巻。



「桜花」を抱く一式陸攻機(イメージ)

「桜花」とは

昭和20年に実戦に投入された日本海軍の高速滑空機で、長さ約6mで、頭部に全重量の半分にも当たる約1.2トンの爆弾を充填し、尾部に推進ロケットを装備した物であった。一式陸攻機を母機として、その腹下に懸吊されて運ばれ、敵艦隊に近づくと隊員(桜花搭乗員)が母機から乗り移り、ロケットを噴射しつつ滑空して敵艦隊に体当たりを行うものである。桜花の出撃は10回に及んだが、桜花操縦員55名、一式陸攻搭乗員365名が戦死したとされている。



撮影用に実物大で復元された桜花



推薦/茨城県遺族連合会・茨城県更生保護女性連盟・茨城県交通安全母の会連合会・茨城県女子体育連盟 | 映画「サクラ花」公式サイト [www.sakurabana.org](http://www.sakurabana.org)

監督/松村克弥 エグゼクティブプロデューサー/櫻井一男・幡谷祐一 プロデューサー/亀和夫・城之内景子 脚本/菅乃廣・松村克弥・亀かずお  
ラインプロデューサー/戸山剛 アシスタントプロデューサー/菅乃廣・谷口昭仁 キャスティング/増田信司 監督補・特技監督/石井良和 助監督/杉田満  
撮影/はやしまこと(J.S.C.) 照明/吉角荘介 美術/菊池章雄 鉄道員/大澤克俊 装飾/柴田博英 線演/村石義徳 衣裳/森口誠治 編集/小野寺拓也 VFXスーパーバイザー/田中貴志  
ヘアメイク/宇都圭史 特殊メイク/西村喜廣 音楽/坪野竜也 音響効果/丹雄二 事務局長/城之内景子 アートディレクター/藤代範雄 制作協力/マウンテンゲートプロダクション  
製作支援/映画「サクラ花」製作委員会 主題歌「桜舞う日は」(作詞 海老名香葉子&Yasuha・作曲 歌唱 泰葉) 撮影協力/いばらきフィルムコミッション  
配給宣伝/映画センター全国連絡会議・サクラプロジェクト 宣伝協力/ファミリーアーツ

## ただ、守りたかった。沖縄を、日本を、家族を、恋人を・・・